

会報

78号



函館の歴史的風土を守る会会報

No.78 H17. 9. 20

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社内

電話(0138) 51-4785

印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845

念願のシンポジウムを 開催しました

歴風会の数年の懸案であり、今後の活動の方向を示唆する「函館の近未来都市像」についてシンポジウムを開催することができました。

合併による新函館市の未来のあり方について都市構造研究の北大大学院小林教授の提言を中心に、西部地区でまちづくりをしている町中研究会の塚田様、バル街実行委員長の深谷様、函館高専の荻沢様、市企画部次長の山本様にそれぞれの思いについて語っていただきました。内容を集約し分析して歴風会の今後の活動の指針として活用させていただきます。



函館の近未来都市像シンポジウム



第27回 函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー

チャリティーパーティー 大盛況でした

「第27回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」は会員や歴風会を支援する300人の参加で盛況のうちに終了しました。

実行委員長を務めていただいた函館音楽協会会長市川須磨子様、副実行委員長の北大水産学部教授佐賀直道様には大変な多用中にもかかわらず重大な任をお引受いただき心から感謝申し上げます。

函館の歴史的風土を守る会会長 清野恒夫

実行委員長あいさつ



この度、清野会長からのご指名により、名ばかりの実行委員長を務めさせて頂きました。日々煩雑な生活を送っている私には身が縮む思いのお役でしたが、我が街函館のすばらしさ、そしてその歴史風土を守り続けることの重要さを、再認識させて頂きましたことに、心から感謝を申し上げます。

音楽活動をしております私にとって、函館の歴史的町並みには多分に恩恵を受けております。旧函館区公会堂や金森ホールをはじめ教会や寺院など、会場の建物自体が音楽の一部となり、ここ函館ならではの演奏活動をさせて頂いております。

実行委員長 市川 須磨子

そのような意味でも、パーティのアトラクションで演奏させて頂きましたことは、私にとって大変意義深いことであり、重ねて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



すばらしい活動に心から敬意を表しあげ、今後益々のご発展をご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせて頂きます。

副実行委員長挨拶



第27回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティーの閉会に際し、ひと言ご挨拶申し上げます。

まず、この度『歴風文化賞』を受賞された皆様にお祝いを申し上げます。また、本パーティーの準備にご尽力いただいた実行委員会・歴風

会事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、私も関わっている函館の町起し大型プロジェクト「国際水産海洋都市構想」ですが、これに関して、キーワードのひとつに「レトロ・フューチャー」という言葉があります。「温故知新」とも共通する発想です。もっと分かりやすく言うと「快適主義」とも言えますでしょうか。残されたレトロな建物を保存するのみならず、再建・活用しようとするものです。例えば、弁天町の旧西警建築物をリノベートし、中にハイテク研究施設を誘致し、活用するという計画です。夢のような話がこの町の産学官の連携の下、もうすぐ実現します。

副実行委員長 嵯峨 直恒

前世紀はまさに「モダニズム（近代・現代主義）」の時代でした。しかし、前世紀末には、その限界性も問われてきたのは、皆様ご承知のことと存じます。新世紀は「心の時代」と言われます。心のこもった町起しには「モダニズム」の名の下に切り捨てられてきた、歴史的風土に根ざした快適さが大切にされなければなりません。

「函館の歴史的風土を守る会（歴風会）」は、発足以来27年間の長きにわたり、この町の歴史的環境を守り、後世への遺産として保存運動を推進してきたと伺っております。このような歴風会の活動は、今日ますます地域の発展に重要になって来ており、まさに先見性のある運動であったと思います。清野会長様はじめ、歴風会の皆様のこれまでのご努力に深く敬意を表する次第であります。

最後に、ここにお集まりの皆様方のご健勝ならびに歴風会のますますのご発展を祈念致しまして、閉会の挨拶に代えさせていただきます。

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である

平成16年度 歴風文化賞（第22回）

原風景

＝宣言文＝

八幡坂

函館市元町

昔、坂の上に箱館八幡宮があったことから八幡坂と呼ばれるようになった。

明治初期の2年続きの大火で、八幡宮は谷地頭に移ったが坂名はいまでもそのままである。大火後曲がった坂はまっすぐな立派な坂になり、函館港を見下ろす美しい坂道は函館の名所となっている。

坂道にはニセアカシヤの街路樹があり、初夏は白色の小花が咲き、冬はイルミネーションで彩られる。

八幡坂の石畳に刻まれた歴史と風景は、人々の思い出と共に函館の原風景でありここに宣言する。



保存建築物

藤沢 一 邸

函館市時任町10-4 藤沢 一 様

この建物は昭和9年、木造2階建専用住宅として建築された純和風の住宅である。防寒のため窓まわりが木製からアルミ製に変えられているが、下見板張りの外観等創建当時の姿を忠実に伝えている。

建築は新潟の大工によるもので、柱等の構造材はヒバを使用、建具等も当時のまま美しく保存され活用されている。

近代化が進む五稜郭地区に近接しているが、しっかりと保存されており昭和初期の和風住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。



保存建築物 安達 しげ 邸

函館市時任町10-1 安達 しげ 様

この建物は昭和9年、木造平屋建専用住宅として建築された。

母屋は下見板張りの和風であるが、玄関右手に洋風の応接間が附属している。

応接間は玄関より前面に突きだしており、ドイツ壁と言われる粗いモルタル仕上げの外壁、縦長の窓で存在を強調している。当時、母屋が和風で洋間付きの住宅は「文化住宅」と呼ばれ、この地区では大正から昭和初期にかけて流行していた。

防寒のため窓周りは、アルミ製に変えられているが全体は創建当時の姿をよく伝えている。

近代化が進む五稜郭地区に近接しているが、しっかりと保存されており昭和初期の文化住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

再生保存建築物 大手町ハウス

函館市大手町5-1 阿部 基子 様

この建物は、大正7年、木造2階建の事務所として旧函館区公会堂を手がけた名棟梁、村木甚三郎により建築された。

当初、浅野セメント函館営業所、戦後は北海道漁業公社函館支社として使用されていたが、1988年の売却後は空き家になっていた。廃虚になっていた建物の再建工事は、創建当時の写真を基に忠実に行われた。石造り風で重量感のある外観、左右頂部の塔屋・縦長の窓・玄関前の円柱等、美しく蘇らせた。

現在は喫茶店「大手町ハウス」として、港の歴史を刻んできた建物で多くの人々が憩いのひとときを過ごしている。函館における大正時代の事務所建築の歴史を知る上で、貴重な建築物である。



再生保存建築物

有限会社 加賀谷旗店

函館市大手町10-12 加賀谷 聡徳 様

この建物は、大正3年、木造2階建染工場兼店舗併用住宅として建築された。

加賀谷旗店の創業は明治30年であり、当初旧西川町に店舗を構えていたが大正3年に現地（当時は鶴岡町）に移転した。

下見板張りの外壁に2階上部の漆喰塗りの白壁がアクセントとなっており、構造体である基礎・土台・柱・梁、工場内の藍瓶等も創建当時のままである。



外観は当時の姿を崩さないよう幾度かの補修を経て、現在は美しい和風の佇まいとなっている。

昭和9年の大火では周囲の建築物の多くは罹災したが、加賀谷旗店は無事難を免れている。

西部地区における大正初期の店舗併用住宅の歴史を知る上で、貴重な建築物である。



個人賞 富岡 由夫 様

函館市柏木町7-29 函館産業遺産研究会会長

北海道大学工学部卒業後、地元の鉄工所に8年勤務。その後函館工業高等専門学校教授として、機械工作法、金属材料、機械工業史等の研究を行う。

平成8年、函館産業遺産研究会を発足、函館における工作機械・船大工道具・木造船船図の収集・調査・保存に尽力している。また軍事遺産である函館要塞・戸井要塞の調査等様々な活動も行っている。活動の功績が認められ、平成8年に函館機械工業史で神山茂賞、平成12年に収集・保存活動で産業考古学会功労賞を受賞した。

現在は函館市と民間が保管している工作機械関係の機械設備を展示活用する「産業技術博物館」の設立に向けて努力している。



団体賞

どんぐりを植える会

函館市東山2-54-14

会長 松永 勝彦 様

自然豊かな昔の河川・湖・海の再生と二酸化炭素の削減を目的に1995年に創立された。

松永会長は「森が消えれば海も死ぬ」と提唱、森林が海の生物を育てていることを科学的に立証した。会員は約100名で、春から夏にかけての植林場所の草刈り、秋は植林・どんぐり集めと苗木造り等を精力的に行い、現在までに約3万本を植樹した。

活動は海外にもおよび、タイではマングローブの植林も行っている。

会の目標は一生涯を通して、一人1000本の植樹を行い豊かな森林を再生させることである。

団体賞

竹田峰水会

会長 竹田 君子 様

事務局 函館市杉並町7-20

㈱オオタカ函館 内山 幸恵 様

日本の伝統文化である茶道を気軽に親しんでいただきたいという願いをこめて、昭和60年の「第1回はこだて冬フェスティバル」から継続して活動、本年で20周年を迎える。

冬フェスティバルでは「チャリティー茶会」を開催し、金森倉庫内で来場する方々に季節のお菓子と楽しい道具の取り合わせでお茶を提供し、歴史的建築物と日本の文化を楽しんでもらっている。

会の活動は冬フェスティバル以外にも、秋の函館市民感謝祭や七飯・森町の文化祭、恵山のつつじ祭り等でお茶会を設ける等広範囲に及んでいる。

茶会の益金は、まちづくり・町並み基金として函館の歴史的町並みの形成に貢献している。



●●● 受賞者の喜びのことば ●●●

謝 辞

歴風文化賞を受賞して

富岡 由夫



この度は長い歴史と伝統をもつ「歴風会」に私達の仕事を認めて頂き、それぞれの分野で表彰をうけました。皆さんになり代わって御礼の言葉を申し上げます。保存建築物を活用されている4件を始めとし、地味な活動の「どんぐりを植える会」、「竹田峰水会」、それから個人表彰の船大工道具や工作機械の収集活動。どれをとっても函館の文化・風土に対する強い情熱と、深い愛情がなければ成し得ない仕事であります。この度の表彰は、私達の今後の活動に更なるはげみと飛躍をもたらすものと確信しています。重ねて御礼申し上げます。

こゝで私達の函館産業遺産研究会のことに一寸触れさせていただきます。今回、個人表彰ということですがこれは遺産研究会の皆さんを代表してお受けしたと解釈しております。今まで船大工道具1,800点、木造船の図面450枚、工作機械15台の技術資料を集めましたが、これらは多くの会員の協力がなければ成し得ません。

私達は収集整理、報告書の作成・保存活用を三本の柱にしてやっていますが、一番難しいのは保存活用であります。現在集めた工作機械はバラバラに置いてあります。何とか今年度中にまとめて収蔵したいと努めている処です。

私達の集めた技術資料は現在は使われていません。しかし、北洋漁業興隆期や高度成長期の大正・昭和前期には盛んに使われ、造船所・鉄工所に従事した多くの技術者や職人達の生命がこめられています。

これらは郷土産業史の一コマとして、将来に伝えるべきものであり、この中から将来の指針も生れてくると思います。何故なら技術の向上とか、革新は突然おこるものではなく、長い歴史の連続性の中に、新しい萌芽が隠されているからです。

保存活用は一番難しい問題ですが、将来の産業技術博物館の基となる充実した収蔵庫の設置を強く希望して止みません。

函館にはその歴史的な特殊性で、道内の他都市とは異なり、多くの産業遺産が眠っています。それらを蘇らせるためにも是非必要なことです。

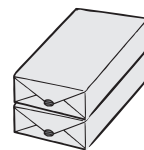
私達の会の問題点、要望を付加えて御礼の言葉とさせていただきます。





チャリティパーティ・オークションの商品のご提供

ありがとうございました



第27回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティ（2005. 3. 11）への商品のご提供に御礼申し上げます。

平野建業、函館山ロープウェイ、タランチーネ、近藤商会、有限会社おだじま水産、ナシオ、五稜郭タワー、サッポロウエシマコーヒー、フラワーデザイン花夢、五島軒、NHK函館支局、（順不同） 運営委員

チャリティパーティの運営と感想

運営委員 対馬 誠

第27回新春チャリティーパーティーは、3月11日、元町の五島軒本店で開催されました。パーティーの企画運営にあたっては、市川実行委員長、嵯峨実行副委員長、チャリティー商品提供の企業の皆様に大変お世話になり、盛大に終了することができました。

パーティーに先立ち歴風文化賞の表彰式では例年より多い8件が受賞しました。例年、保存建築物は函館市の西部地区からの建築物が多かったのですが、今回は五稜郭に近い時任町の2件が受賞しました。五稜郭周辺から湯の川にかけては「文化住宅」と呼ばれる応接間付きの住宅をはじめ、洋風・和風の貴重な住宅が残っていると思われます。そのような建築物をご存じの方、見たことのある方はぜひ9月に送られるハガキで知らせていただきたいと思います。



受賞する大手町ハウスの阿部基子さん



演奏中のマリンバはこだての会員

パーティーの方は運営委員の反省会で色々な意見・反省が出されます。一昨年5500円の会費は「少し高いのでは」「5000円にしたほうが参加しやすいのでは」という意見がでて、昨年から5500円だったチケットを500円値下げして5000円にしています。五島軒さんには料理の質・量をできる限り変えないでと無理をお願いしての値下げでした。アトラクション（音楽演奏等）も会員の皆様のアンケートを参考に決めています。希望するアトラクションが有りましたら歴風文化賞同様ハガキに書いて欲しいと思います。

より楽しい、充実したパーティーになるよう、今年度も会員の皆様の御協力、御支援よろしく御願いたします。

演 題

激動社会を歩んできた 函館商人

富澤 嘉平

今日皆さんにお話しようと思っている主題は「激動社会を歩んできた函館商人」ということです。最近、駅前再開発とか、企業再生の戦略とか、産官学一体のふるさと振興策など、いろいろな言葉で表現されております。

開港から現在まで振り返ってみた百余年の函館商人の歩みは、今の激しい経済構造の変革期、厳しい生存競争の中に生きる現代の企業家、商人の方々に、今なにをなすべきか、その商道はどうあるべきか、今日の課題は何かを考える上で参考になればと思って取り上げた訳です。

経済関係団体の要請で札幌方面での講演で、最後の質問で何時も言われることは、「私たちは、いつも函館商人の生き方を鏡としている。次回には是非、函館商人の生きざま、歩みの歴史について話して欲しい。」と言われてきました。

「函館商人」の何が素晴らしいのか、今日の経済界で鏡とされている所以は何なのか、今一度、激動の時代を生き抜いてきた函館商人の歴史を探ってみることにしたのです。

開拓期の名残を留める西部山麓、その一角をしめる元町公園に四天王の像が建てられております。函館経

済の開拓期に活躍された多くの商人の中でも、函館商人のど根性を発揮し、新しい風土を創った代表として建てられているので、かれらが活動した社会背景に焦点を当てながら、函館商人気質や商人道を探ってみることにします。

今まで郷土史研究者のなかで「郷土の商人」についての取り上げが少ないと言われてきました。その要因は、現在も後継者がおり、長い道のりの中でのプライベートに触れなければならないために避けて来たわけです。

明治期に活躍した函館商人について述べるにしても、本道開拓の歴史、本州との交易に触れる限り近江商人等について触れなければなりません。交易は、敦賀、小浜を拠点とした商人達や北陸商人によって松前藩の成立から前期まで財政の役割をはたし、後半はこれらの商人に代わって、積極的に活動して行くのが近江商人なのである。近江八幡など琵琶湖周辺など出身地とする商人達で日本三大商人に数えられ、全国を舞台に活躍され、蝦夷地開拓に欠くことの出来ない存在で、多くの情報網を持ち天下の情勢いち早く把握し、優れた経営戦略で活動してきた商人なのです。その他にも博多、長崎、甲州商人などがおりますが、なかでも堺

商人は領主の勢力争いを巧みに利用して経済的富の力を基盤にして自治的な団結組織をつくり、いわゆる自治特権を領主に認めさせた。これを指導したのが会合衆と呼ばれる富商たちで、町人、商人による街づくりの一例として後世に伝えられるものがある。

近江商人の商法は、積極的で創造的であると言われる、しかし、蝦夷地に渡ってからの商業活動は、新しい商品の開発、優れた情報収集、安定した物資の供給、大量輸送など本道開発に尽くした功績は極めて大きい。しかし、近江商人の商業活動をよくみると他商人に対する対抗意識が強く、幕府、藩



との癒着による特権で蝦夷地交易を独占し、自己利益中心に活動を展開している。そして、本道を舞台に活動した彼ら商人らは明治の発展に、その担い手となっていないのです。

函館港が世界の貿易市場に名を連ねたのが安政六年（1859）で、これを期に外国の官吏、宗教家、学者、商人の往来が繁くなり、外国文化の到来で函館にいろいろな文明の灯がともされたのです。この様な時期に活動する商人を見ると、全く別な新しい商人像が見られるのです。彼らは、函館を生涯生きる場として、商圈の拡大に務め、新しい商法、新しい商品を開発し、街づくりをしながら活動をしているのです。函館の本格的な政治、経済的な中心となるのは開港以後で、四天王の像に挙げられている人物も、この頃に生まれ、あるいは丁稚奉公など商人となる修行をされていた時代であったわけです。

明治二年の箱館戦争が終わり商圈も全道に拡大し、北日本一番の商業の中心となり、明治十四年には外国貿易を独占し全道総額の五十八％を占める状態であった。

この頃の函館には、四つのタイプの商人が見られます。その一つは、古くからの問屋、その二は、大きな商社の出先機関、その三は、清商を中心とした外国商人、そして開国以後函館に来て行商、番頭から叩き上げた商人達である。箱館戦争のさなか商人達がためらっているときに、ありったけの金で米を買い集め、仲間から無謀と言われながらも、商売とは命がけといった函館商人のど根性を見せた相馬哲平やカネモリ森屋デパートの基礎を創った渡辺熊四郎などの活動が見られる。彼らの様な函館商人の新興勢力が力をえてくると当然既存業者との対立が生まれてくる。特にこの頃大きな力を持っていたのが清国人を中心とした外国商人達であった。

当時、経済界での一番の関心事は貿易商習慣の改正問題であった。輸出の大部分を占める水産物取引での不平等（・カンカン料・付け昆布・秤の扱い）に対して外商の特権を撤回させる函館商人の団結した取組をし、百十日間の取引を中止して、その特権を撤回させている。開港当時、資金の不足や不慣れな取引が生んだ習慣が、商人たちの結束によって次々と改善されていったのである。いま述べたカンカン事件こそ当時の函館商人の心意気を示したひとこまであると言えるでしょう。

明治初年から二十年にかけての函館の商業は、叩き上げ商人の活躍する、文明開化、ハイカラ文化と言わ

れる草分け時代と言えるでしょう。カネモリ洋物店、梅本呉服店、五島軒、精養軒、進藤商店、梅津商店、白崎商店など挙げるときりが無い。それにしても、これらの商店の創業には苦労人が多いのが目立っている。しかし、これらの創始者には共通して、商売に対する意欲とパイオニア精神に富んだ気質が伺うことが出来るのです。なかでも四天王といわれている商人達の小伝を読むと、確かに江戸期に活躍した近江商人達と違った商人像が描き出されるのです。

四天王、渡辺熊四郎・平塚時蔵・平田文右衛門・今井市右衛門について業績などは紙面の都合で割愛させて載けます。

明治の函館は、本州にみられる都市のように旧藩の遺産もない。それだけに束縛もなく、自主的に市民活動ができ、創造的な経済活動もでき、市民による都市創りのできる環境にあったと言えるのかもしれない。その先頭に立ったのが区長の常野正義であり、四天王達であったのです。

開港からの函館商人の歩みは、不平等な商慣行のなかで、激しい生存競争、たび重なる火災による被害を乗り越えて歩んで来た。とにかく創造的にやる気をもって体当たりしていくより道がなかったのです。確かに、明治期の商人には、商いに命をかける激しい情熱と時代の流れを見通す先見の明があったように思われます。裸一貫で函館に渡り自分の才覚だけで身代を築いた明治期の商人達はたいてい投機性を持っていたし、これぞと思う事業には惜しみなく投資するという実行力があり、活動の場である函館を愛し、函館の発展を願いながら活動されてきたのです。それだけに、大正の経済恐慌の時でも夜逃げせず商業道徳を頑なに守る律儀さを見せているのです。これも明治初期の激動期を足で稼いだ先駆者のパイオニア精神で駆け抜けてきた一つの風土、商道であったと思うのです。

ここ数年の経済不況、景気の低迷は街の随所にいろいろな姿を見せております。しかし、広く市民の期待を持って設立された未来大学、学内の教授も学生達も二十一世紀に向けた函館経済、街づくりに学外にあって大きく貢献されております。

年間五百万人を越える観光客を迎えている観光都市の私たち市民も企業体も今一度、明治の激動の世に生きた商人達に目を向け、それぞれの立場で函館の街づくりに努力していきたいものと思います。

「温故知新」元町公園に建立されている四天王像を一度訊ねて欲しいと思っております。

訃 報

函館の歴史的風土を守る会監事 佐藤利夫氏

本会監事 佐藤利夫さんが平成17年8月1日逝去されました。函館の歴史的風土を守る会の初代会長である今田光夫さんから、二代目の前会長である浜島国四郎さんがバトンタッチする時に本会に入会し、同時に監事として今日に至っておりました。建築設計事務所、事務所協会、建築士会、函工同窓会建築科会、ライオンズクラブ等、要職を務められ大変忙しい日々を送られておりました。

温厚で実直な人柄、的確なアドバイスをいつもいただきました。改めて今は亡き、佐藤さんのお人柄を偲び、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

函館の歴史的風土を守る会の今日までの活動内容

- ・ 函館市町並み基金／文化財保存に寄付
- ・ ハリストス正教会の修復に寄付
- ・ 函館市景観条例制定に寄与
- ・ 歴史的文化財保全基金積立
- ・ 記念誌「函館のまちなみ」発刊
- ・ 歴史風土保存のための各種行事
- ・ 開港5都市景観会議の運営
- ・ 函館市都市景観賞受賞
- ・ 北海道町並みづくり功労者として道知事表彰
- ・ ふるさとづくり特別賞受賞
(北海道コミュニティ運動協会会長賞)

トピックス

- ◆ 4月9日 「函館の近未来都市像と市民の役割」 シンポジウム開催、170名の参加
- ◆ 5月21日 歴風会総会を五稜軒駅前店にて開催
- ◆ 5月23日 「函館市西部地区歴史的町並み資金運営委員会」委員に吉村副会長を推薦
- ◆ 6月20日 「はこだてまちづくり市民会議」委員に原運営委員を推薦
- ◆ 6月25日 会員村岡武史氏朝日新聞掲載エッセイ集「鐘の音」出版
- ◆ 6月29日 歴史風土「残したい函館」ビデオ製作のため株式会社ニューメディア函館センターと提携
- 7月31日 第1作「大正湯」撮影（清野会長担当）放映9月の土曜日と日曜日
- 8月21日 第2作「長崎邸」撮影（対馬運営委員担当）放映未定
- ◆ 8月4日 会員グロウド神父様水彩画展芸術ホールにて開催

- ◆ 9月10日 歴風文化賞「亀田川をきれいにする市民の会」主催「亀田川のいきものをさがそう」開催
- ◆ 9月16日 NPO全国町並み保存連盟主催「全国町並みゼミ・美濃大会」開催
- ◆ 10月7日8日 「開港5都市景観まちづくり会議」神戸大会開催・神戸市北野にて

＊＊ 編 集 後 記 ＊＊

- 諸般の事情により会報発行が大幅に遅れましたことお詫び申し上げます。
- 歴風会事務局のあります五稜郭タワー株式会社の新しいタワーが100メートルの姿を見せ始めました。
- 歴風会のホームページができました。
アドレス <http://www2.odn.ne.jp/hakodate/rekifukai/top.htm>です。（編集委員）